

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名: 「生きる彼女と電脳な僕」

テーマ: 「存在しているのに、生きることを許されない美少女」

キャラクター

40

ストーリー

35

テーマ(設定)

45

文章力

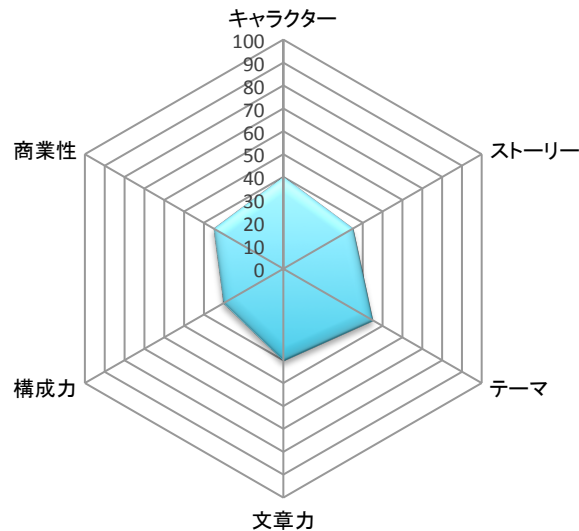
40

構成力

30

商業性

35



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・「障害がない」という点について、障害はないわけではないのだが主人公がへっぴり腰(?)過ぎて、障害の解決を即行で諦めている点が非常にもったいない。せめて諦めるならばそれなりの努力をした上で「やっぱりだめだった」とした方が、美蓉のために頑張ったのだという雰囲気も出て作品自体の面白さが増したのではないかな。

・近未来SF的な世界観と、それを描写する技術は高いものがあると感じた。しかしながら、50枚という短編の中で設定を作り過ぎた感が否めないため、必要最低限の設定描写のみに留めその分キャラクターの心情表現などを増やせば更に面白くなったと思われる(キャラクターの心情変化にかなり無理があるため)

合計加点ポイント: 0

総得点: 225 / 600

B方式総合得点: 8438 点